

高島を元気にしたい!!

特集1 高島の「地方創生」で活躍する女性たち

市では、全国的に課題となっている人口減少を抑制し、将来にわたって安心して暮らせる高島市を目指すために、平成27年度に「高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）」を策定し、雇用の創出、移住定住の促進、出生数の維持、時代に合った地域づくりの4つの基本目標を掲げて、さまざまな取り組みを展開してきました。



平成31年度の第1期総合戦略集大成の年を前に、事業の「一部」として、高島の地方創生で活躍する女性たちを紹介します。

総合戦略・基本目標1
高島における安定した雇用の創出する分野

市内に「仕事」と「雇用」を生み出すため、市では平成27年度から「実践型地域雇用創造事業」に取り組んでいます。事業では、高島の地域資源を活用した新商品開発や販路拡大にも取り組み、平成27年度から3年間は特に、「発酵食」に注目した商品開発を行ってきました。中でも、鮎ずしの飯を原材料に使った「ピワイチ発酵ゼリー」や、醤油、酢、味噌などの発酵食品の風味を生かしたクッキー「たかしま発酵の栗」などの商品は、市内事業者とのマッチングが成功し、市内道の駅や物産店でも購入することができます。こうした商品の企画・開発や試



高島地域雇用創造協議会スタッフ
左から大原さん、岡本さん、板楠さん、大久保さん

人の方も来られています。商品開発が即、大きな雇用につながる訳ではありませんが、地域でがんばっているさまざまな事業者さんの新しい展開のきっかけになれば、と板楠さんは語ります。実践型地域雇用創造事業では、こうした商品開発にあわせて、事業者や求職者向けのセミナーも開催、平成29年度までに217人の雇用を創出してきました。平成30年度からは「観光資源」をキーワードにした人材育成や雇用創出に取り組んでいます。

国の「重要文化的景観」にも選定されている「大溝の水辺景観」地域で、観光案内やガイドの育成、イベント運営などに携わるのが、上田未来さんです。上田さんは、平成26年に大津市から高島市に移住され、現在は大溝の水辺景観まちづくり協議会で勤務されています。

その傍ら、空き家を地域活性化のために役立てることができないか、「食」を提供すれば多くの人が集めるのではないかとの思いから、春のオープンに向けて本通り沿いの中古物件を改修されています。

お店の名前は「白湖（はこ）」食ばかりだけでなく、地元の方も観光客も集えるシェアスペースとしても活用する予定で、こちらは既に、地域のお店が鮎ずしの食べ比べや味噌づくりなどのワークショップイベントで活用されています。さらに「地域に文化があれば、暮らしが豊かになる」との思いから、映画上映会も予定するほか、将来的には日替わり店主がカフェを運営する「ワンデイカフェ」のような形で、キッチンごとお貸しすることも検討中なのだとか。



↑お店の展開イメージを語る上田さん
→店内のようす。3月2日には、映画『すもも』の上映が予定されています。

「おまは、この地域に本当に必要な空間をつくることを自分のペースで考えています。もちろん、将来的にはビジネスとしてきちん

と成り立つことも目標です。」お店は、ご結婚と同時にこの地に移り住まれたパートナーと一緒に運営されるそうです。大溝のまちから、等身大の新しい「パン」が芽生えています。焼き菓子の製造販売や観光物産プラザの「MINU cafe cocco」の運営を行う「ドリーム・あんです」で、障がいのある方の社会参画や就労をサポートしているのが、社会福祉法人虹の会の石倉しのぶさんです。石倉さんは、「MINU cafe cocco」オープンの店長として、障がいのあるスタッフの仕事の流れをつくるサポートをされています。最初は、1週間に数時間しか入れなかったスタッフが3年の訓練の後に、1日6時間入れるようになるなど、その自立を見守る中には日々発見があると言います。今では、オープン時のスタッフのうち3人が、次のステップや一般就労

Column 高島への移住・定住促進！コンシェルジュに聞く

Q | 高島に移住を検討される女性は、高島の何に注目していますか？

(菜) 多くの方が、高島の食や水に関心を寄せられています。子どもに安心できるものを食べさせたいという思いからです。

Q | 新たな土地での生活に不安を感じている女性もいらっしゃるのでは？

(菜) 意欲的な方が多いと感じますが、この地で培われてきた集落の雰囲気と、新たに移住される方の意欲とを、柔らかく混ぜ合わせていくことも役割のひとつだと感じています。

Q | 「生まれも育ちも高島市」の菜原コンシェルジュが考える高島暮らしの魅力を教えてください。



平成27年から移住定住コンシェルジュを務めている菜原 恵子さん

(菜) 自然環境も人間関係もほどほどに風通しのいい土地柄で、高校生ぐらいまでの「人間として根っここのベース」を培うには最高の場所です。子育て世帯の方にお勧めの高島です。

平成30年度の移住相談件数は152件、移住実績は、29世帯78人です。(平成31年1月末現在)引き続き、高島暮らしの良さを伝えていきます。



石倉さん。ドリーム・あんですのお菓子は、マキノビックランドなどでお求めいただけます。

総合戦略・基本目標 2
高島への新しい人の流れをつくる分野

時間でも働ける環境が広がれば、雇用の幅がぐっと広がると思います。」と続けます。

「ドリーム・あんです」では、障がい者をまずは体験実習として受け入れる「トライワーク」の協力企業を関係機関との連携の元で開拓しながら、誰もが自分らしく働き、暮らせる社会を目指しています。



↑高島ちぢみを使った Boi Boi 紐
→Boi Boi 紐体験・販売会のようす

地方創生を推進する人材を発掘、育成することを目的に、平成

総合戦略・基本目標 4
時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを叶えるために、地域と地域を連携する分野

市内には、2000を超える自治会やコミュニティがあり、市街地周辺の集落から、冬は雪が深い集落まで、立地や構成世帯数など環境もさまざまです。

こうした中、市では将来にわたって安心な地域社会を住民同士の支え合いによって運営していくために、地域の課題や将来について、集落単位で住民の方に話し合っていたたく「集落座談会」を開催しています。

さらに、平成29年度からはマキノ東小学校区で、平成30年度からは今津西小学校区で、一つの集落だけでは解決できない課題を、小学校区単位で近隣自治会同士が連携しながら解決できないかということ、住民アンケートをもとに検討していく「アンケートワークショップ」の取り組みも始めています。

このアンケートワークショップにも参加して下さっているのが、兵庫県神戸市から今津町天増



マタニティ・産後ケアサロン Lima(リマ)を営む大山さん

28年度に「たかしまローカルベンチャースクール」を開催し、市内で起業や事業拡大を目指す方々のビジネスプラン作成や、そのブラッシュアップに向けた支援を行いました。

そのスクール生の一人、市内で女性のマタニティ・産後ケアサロンを営む大山 抄恵さんが、プランの中で構想を練られていた「高島ちぢみの抱っこ紐」の試作を重ね、「Boi Boi紐」として商品化し、市内で体験・販売会を実施しています。

大山さんは、ご自身の産前産後の不安やストレスの経験から、高島で子どもを生み、育てる女性が少しでも楽になり、健康で楽しいマタニティライフを過ごせるようサポートしています。こうした中、高島の風土で織られた布を母子ともに身につける心身の安らぎをイメージし、自ら織物事業者や縫製

川地域に移住された、森下千さなさん。

デザインの仕事に携わる森下さんは、移住を検討する中で、市の発酵食品や移住 프로모ーションに触れ、デザインを重視する風土があること、こうした場所であれば自身がデザインを行うにも良い環境であることを感じ、移住を決めました。

移住者の自分にも区の会議への参加を呼びかけてもらえることや、区長さんが「若い人が来てく

総合戦略・基本目標 3
若い世代の結婚・出産。子育ての希望をかなえる分野

事業者にかけあい、今回の商品化を実現されました。

高島の地域資源の良さを、地域の人にこそ知ってほしい、そんな思いをそれぞれの形で実現する女性も増えています。

高島市で、出会い、結婚、子育てをサポートしているのが「たかしま結びと育ちの応援団」です。

平成29年度は、子育てに関する相談が32件あったのに対して、結婚に関する相談が92件あり、出会いや結婚に関する相談が多いことが特徴です。

こうした中、結びと育ちの応援団では、さまざまな機関と連携した婚活イベントのほか、結婚を応援したい「縁結びボランティア」による相談対応や、イベント活動などを実施しています。

縁結びボランティアの山内さんは、ご自身が後期高齢者でもあること、現役時代に数々の在宅介護の現場を見てこられた経験から、誰もがいずれば年をとっていく中



「たかしま結びと育ちの応援団」のスタッフと談笑する山内さん(写真右)

で、心身の健康やゆとりある生活を家族や社会で支え合うことの大切さを実感し、県下でも高齢化が著しい高島において、地域の活性化の一助になればと、縁結びボランティアに登録されました。

男女とも結婚年齢が上がっている中で、それぞれに経験や理想があり、結婚に慎重になっている方もいらつやいますが、気軽に相談してほしいと山内さんは語ります。他の相談者の方や、ご自身の人脈などをたどりながらお相手を探し、それぞれの思いに寄り添ったお手伝いをされています。

一人でできることは限られています。登録ボランティアや協力者が増え、ネットワークが広がることで山内さんの願いです。

れたことが希望」と言ってくることが嬉しいと語られます。

アンケートワークショップでは、ずっとこの地域に住み続けている方が地域のために動かれていることの苦労を感じ、自分にはまだ発言できることは少なくとも、謙虚な方が多い高島の方に代わって、高島の魅力をデザインの力で伝え、少しでも若い人が入ってきたくれることに貢献したいと語られます。

天増川地域には、森下さん以外

総合戦略課 ☎(つゝ)5)8114

にもさまざまな職業やスキルを持つ方々が移住されています。古くからこの地に暮らす方と、高島の魅力に惹かれ、市外から移住されてきた方との混ざり合いも、今後の高島市には重要な要素かもしれません。

市の総合戦略は、市のホームページ・トップのバナーからご覧いただけます。



↑森下さんがデザインした移住PRポスター
→天増川で暮らす森下さん

Column
大阪から、高島を応援しています！

高島市と包括連携協定を締結している、フルタ製菓(本社:大阪市)。同社のロングセラー商品、「セコイヤチョコレート」と本市の「メタセコイヤ並木」のご縁で、市内限定の「メタセコイヤチョコレート」を開発いただいています。

昨年秋には、チョコレート1本1本の個包装に「滋賀県高島市に来てね!」などの文字が入り、ご当地感が一層アップしました。



フルタ製菓企画開発部 堂浦 可奈子さん

Q |ご当地商品の開発にはどんな思いがあるのでしょうか?
(堂) 名前のご縁から、一緒にお互いを盛り上げるため、お土産を開発しました。初めて買っていただいたのは高島市の方で、その時のことは今でも忘れられません。

Q |フルタ製菓さんの今後の展開や、高島への応援メッセージをお願いします。
(堂) この取り組みは、皆さんに支えられて3年目を迎えます。フルタ製菓は、お菓子を通してメタセコイヤ並木と高島市をこれからも応援していきます。

チョコレートの売りに応じたフルタ製菓から市へのご寄付は、累積で130万円を超える見込みです！ありがとうございます！